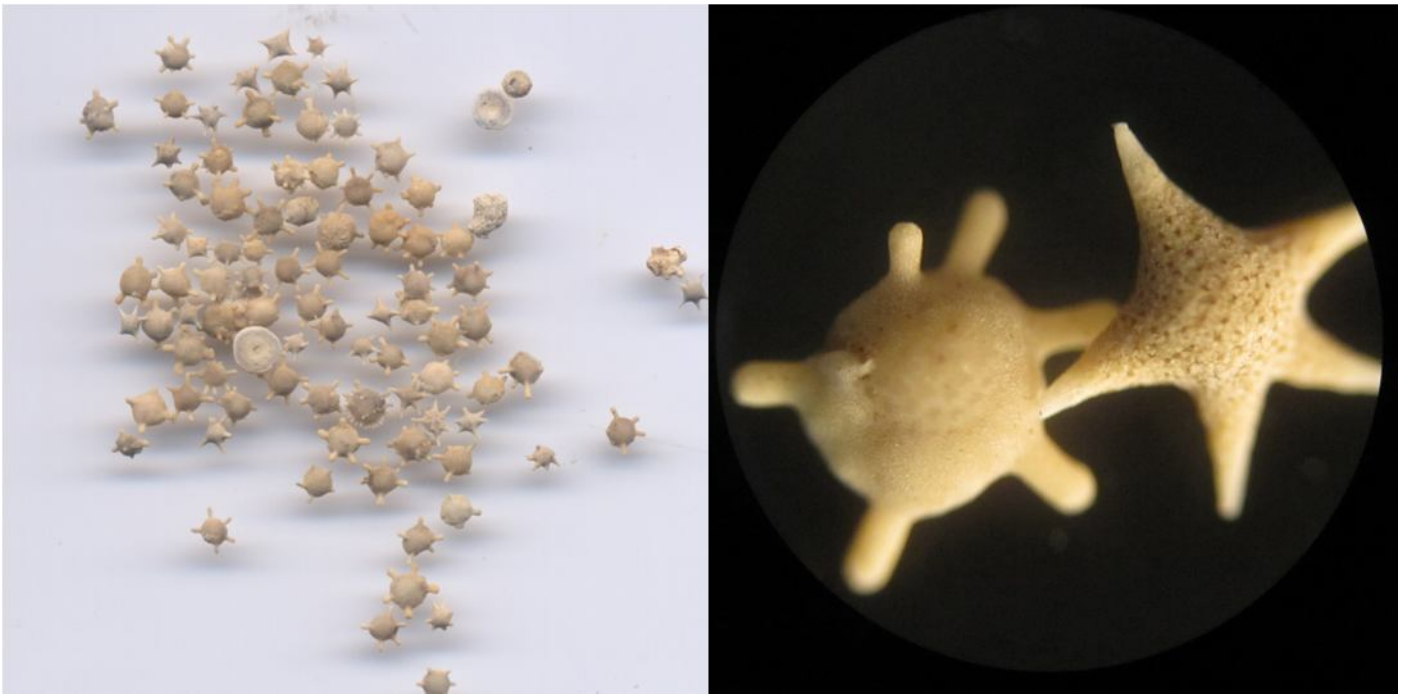


## 「顕微鏡ステレオグラム(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ステレオグラムは、「可視光で実視できるもの」であれば、理論的にはどんなものでも作成可能である。月は地球から約38万km離れているが、1万km離れた地点(地球付近の宇宙空間)から同時に月を撮影すれば、月を「天体として」ステレオグラムにすることが可能だ。(地上からではいろいろな理由で難しい。)一方で、顕微鏡サイズの小さなものも、ステレオ撮影は可能なはずだ。私は沖縄産の星砂で試してみることにした。



星砂(有孔虫の外骨格や化石)には大きく分けて、2種類が存在する。一つは、先の丸い何本もの腕を持ち、機雷のような形をした、**カルカリナ(属) *Calcarina*** (写真左)。もう一つは、ヒトデのように5つの腕を持ち、「星砂」の名の由来にもなった、**バキュロジプシナ(属) *Baculogypsina*** (写真右)である。カルカリナのほうがより立体感が強く、ステレオ撮影の対象に適している。私は、まず普通に、デジカメで接写撮影してみた。



### ┌─── 交差法 ──┐ ┌─── 平行法 ──┐

意外にも、優秀なステレオグラムになった。それぞれの腕が、どんな角度でついているのかも、非常によくわかる。「おととつと」に似ている。面白いのは、下に敷いたカットティングマットの凹凸まで、立体的に見えることだ。これは面白い! 顕微鏡でステレオ撮影ができれば、もっと細部まで観察できるだろう。(つづく)